

令和2年度 第3回東海村高齢者福祉計画推進委員会 議事録

- ◆日時：令和2年11月18日（水）午後6時30分～午後8時
- ◆場所：東海村役場5階原子力視察研修室
- ◆出席者：【委員】薄井委員長，藤澤委員，土屋委員，山本委員，並木委員，上条委員，妹尾委員，齋藤委員，砂押委員，小池委員，三田委員，藤田委員，朝岡委員，深谷委員，鹿志村委員
【事務局】（高齢福祉課）佐藤課長，佐々木課長補佐，藤田副参事，三瓶係長，川上係長，前田係長，ヴァキリ主任，佐野主事，井上主事，（記録者）上田係長，（福祉総務課）渡辺係長，（健康増進課）平野係長
- ◆欠席者：小野寺委員，砂押委員，綿引委員

- 1 開 会
- 2 高齢福祉課長挨拶
- 3 委員長挨拶
- 4 議 題

（1） 第7期計画の振り返りと第8期計画策定に向けた課題について

事務局	<p>資料1について説明</p> <p>○資料修正。資料4 ページ修正。なごみ体操教室の「延べ」を削除。P.11 【高齢者の生活支援】事業の進捗状況の「令和1年度」がA評価2事業となっているが3事業に修正。B評価が3事業となっているが2事業に修正していただきたい。</p> <p>○第7期の途中ではあるが，現時点で第7期の総括をして，第8期計画を決めることをご理解いただきたい。</p> <p>○今年度はコロナの影響で通常通りできなかったが，感染防止を行い，事業を再開しているところである。</p> <p>○P.3. シルリハについては，計画値を下方修正しているが，参加者が多く拡大した。</p> <p>○同じくズテリアも増えているが，伸び悩んでいる。今後は那珂医師会と協議して検討する。</p> <p>○介護予防事業についての課題としては，アンケート調査で4割が知らないということなので，地域に出向くなど地道にPRをしていく。交通手段も重要だが，引き続き関係課と連携し支援する。</p> <p>○P.5. 高齢者センターの施設の利用者は多く，健康づくりが図られている。課題，鍼灸事業の効果不明，対象要件を見直していく。</p> <p>○P.6. 敬老祝い品について，今年から祝い品は，節目の年齢の方を対象に変更し，喜ばれている。課題は，アンケート調査によると生きがいがづくりが人さまざまなので，参加するきっかけづくりに努める。</p> <p>○P.8. 総合相談支援強化について，第8期で村を中学校区で分けて，地域包括支援センターを2カ所整備する予定。</p>
-----	---

	<p>○医療と介護の連携。MCS等で情報共有ができていますが、会議の開催ができなかった。8期では会議開催を含めて、連携強化を図る。専門職の割合や業務の普及啓発を図る</p> <p>○高齢者状況調査。新型コロナの関係で対象者を見直し、民生委員と行政職で回った。次年度以降については検討中である。</p> <p>○地域支え合い体制事業。第2層を3地区設置済み。6地区設置予定だが進んでいないが、単位自治体で活動し、民生委員につなげている。引き続き、第2層協議体設置を図る。</p> <p>○移送サービスのニーズが高い。高齢者の足となる移動支援は重要なので、引き続き関係課と連携していく。</p> <p>○認知症施策は、大変重要。重点事業の認知症初期集中支援チームは目標達成できなかったが、ケースごとにチームで関わるか判断し、チームが関わらない場合は包括で対応する。さらなる周知、連携を図りチームの対応件数を増やしていく。</p> <p>○認知サポーターも重要である。今後も引き続き継続し、認知症サポーターが活躍できる場を作る。</p> <p>○家族介護者支援について。今年度はコロナを鑑みてパネル展を実施。仕事と介護の両立が難しいというアンケート結果なので、その支援を行う。居宅サービス、訪問系サービスを充実させる。</p> <p>→意見なし</p>
--	---

(2) 第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の体系(案)について

事務局	<p>○体系は大きく変わっていない。</p> <p>○変更点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活改善指導事業は住民課の国保で実施しているのでやめる。 ・在宅介護慰労金支給事業は、介護サービスの促進を図ることで介護者の負担軽減を図る。 ・シルリハ、ゾテリア、なごみチャレンジスクール、なごみ体操は、一般的な名称に変更した。 ・施策目標2の変更は、自宅や住み慣れた地域だったが、高齢者虐待などもある自宅や地域に限らないようにした ・2-1-2総合相談支援拠点の整備を施策に新規設定。また、その中の重層的相談の観点から②多様な相談機関との連携を加えた。 ・2-2-2安心できる生活環境の整備に変更。自分らしく終末を迎えるために、事業を増やして「わた史ノート」の周知・活用を追加。緊急ショートステイ事業の「緊急」を追加 ・第8期は重点事業を多様な相談機関との連携を追加して、1つ重点事業が増えた。
-----	---

委員	⇒2-2-2の④の「緊急」という言葉入れたことが的を射ていると思う。これまでだとショートステイ事業だけだと目的はつきりしない。
委員長	これまでの振り返りを盛り込んでいる。基本的なことを教えてほしい。この計画は第5次総合計画の会計画だが、第5次総合計画はいつまでか？
事務局	⇒昨年までだった。第6次総合計画が今年度からで、5年間の計画である。
委員長	介護保険事業計画は、国の計画に沿って3年間ということによいか。
事務局	⇒その通りである。

(3) 第8期東海村高齢者福祉計画・介護保険事業計画（素案）について

事務局	<p>○第8期については、大きく変わらないが、第7期の課題を踏まえていく。赤字で修正しているところが今回第8期で修正したところである。また、本日は第8期計画に関してご意見をいただくために別紙の件についてご意見を伺いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P. 3. 地域包括ケアシステムに関しては高齢者だけでなく、分野を超えて支えていく。国の指針では、2025年や2040年の将来像を見据えていくことで、サービス提供、地域包括ケアシステム、重層的支援体制を図るようにしている。 ・P. 4. 計画の位置だが、第6次総合計画の部門別計画に位置付けられており、計画の期間は3年間である。 ・P. 13. 介護給付費の推移は、増加傾向にある。 ・P. 38. 計画の基本理念は、第7期計画の理念をそのまま継承していく。黄色箇所について、認知サポーターを要請していることもあるので、若年層の人材育成を追加した。また、災害やコロナ感染症対策を追加している。 ・P. 57. 総合相談支援拠点の整備を追加。①と②も追加 ・P. 60. 相談支援拠点の整備に関する事で、地域包括支援センターの委託について明記した。 ・P. 60. 多様な相談機関との連携は、重層的支援の観点から追加。 ・P. 62. 高齢者状況調査。今後どのような調査をしていくか検討中 ・P. 65. 2-2-2安心できる生活基盤の整備の⑧を追加。 ・P. 72. わた史ノート（エンディングノート）を追加。 ・P. 76. 2カ所地域包括支援センターの委託を明記。
委員長	資料3「わた史ノート」について。内容は理解した。ゾテリアという文言を消し、正式名称にしたが、なぜここは固有名称の「わた史ノート」を選択したのか？

事務局	⇒エンディングノートとすると言葉が重いので、柔らかい言葉を選択した。 今回わた史ノートを作ったのは、社協で配布しているエンディングノートは家族目線で作成するものであるのに対し、「わた史ノート」は本人目線で、今までの人生を大切に、今後の人生を自分らしくよりよく歩んでほしい。また、社協のノートは、延命治療など医療的な部分がなかったもので、その部分を追加して作っている。
委員長	名称としてエンディングノートとして、具体的なものとして、わた史ノートがあるという位置付けなのでは？ということ。あとは事務局に任せる。
事務局	【事務局からの質問①について】 70歳以上の年齢のみが要件である。好評であり、過去5年間で60名増加している。目的が、健康の保持と心身の安定を図るとなっているが、本当に効果があるのかわからないところもある。村の財政的にも厳しい面もあるので、年齢のみで助成するのがいいのか？要件を設けることについて意見を伺いたい。
委員	本当にこういうのが必要な人にいきわたっていない。要支援とかを対象にしてみるのがいいと思う。
委員	要件を入れるのは賛成。高齢者状況調査で介護認定を受けていない方を対象という状況行っただが、みんな元気な状況である。助成事業に関しても認定を受けていない方が受けるというのは疑問。
委員	そもそもの事業のスタートは？
事務局	⇒だいぶ前から実施している事業であり、事業の目的に沿って継続してきたが、詳しいところはわからない。
委員長	基本政策1-1のカテゴリーの意図として、ここにカテゴライズされているというのは、健康な人に向けたものではないかということなので、健康な人をますます健康にする。新たな予防給付が減ればという観点から、評価できるのではないか。
委員	財政上の話ということがあったが、ある程度重点的に絞っていくということも考えていいのではないかと思う。
委員	仮に要介護認定者を要件とした場合、今の実績からどういう状況になるか知りたい。デイなどを利用している人で鍼灸を利用している人が少ないので、対象者を分けていくということがいいのか、数値的なものを知りたい。
事務局	⇒比率はわかる。1件1件調べればわかる。
委員	助成額と上限額は？
事務局	⇒1人12,000円/年が上限である。

委員長	はり・きゆうの「ゆ」は大きい「ゆ」が正しいようなので、計画の中身も統一すること。
事務局	【事務局からの質問②について】 第6次総合計画でも人づくりを言われている。介護保険事業計画策定にあたって、国の指針で示されている。現在行っているいろいろな取り組みが少しずつ関連しているが、方法として決定的なものが思いつかない。
委員長	すぐに思いつくものがない。どこでも、悩んでいることでもある。実現の可能性を考えなくてもいいので、意見をお願いします。村としてこういうものを見方をしたほうがいいのではということでもいい。アドバイスの的なことがあればお願いしたい。
委員	今日、セミナーに参加した「ちいすけ水戸」というアクティブシニア（元気な高齢者に仕事してもらおう）をやっている。元気なシニアが勉強会をして、そこに事業所が来て、マッチングしていく。水戸の場合、地域を回って、そこで事業所も参加して、勉強しながらマッチングする。今日は80歳の方も来ていた。非常に有効的。行政がマッチングを行うから、住民が安心して参加できる。今日は14名が参加し、事業所が6社参加していた。
委員	私の周りにはいるシニアの方で、暇という方もいる。人材銀行というものを使うというのもいいと思う。「時間のある方はいかがでしょう」という感じで。
委員長	シルバー人材に頼らないで、村独自のスタッフバンクを作るということ。病院の話をする、マルチプレーヤーも必要である。何でもできる人。病院の前で検温する人など、技術が要らない仕事も必要。ただ、高齢者にはスペシャリストもいる。スペシャリストとして働くのもあっていいのでは？シルバー人材では掃除とか広い意味でも一般業務だが、スペシャリストということであれば得意な業務を生かすというのも本人たちのやる気になる。ヘルパー資格を持つ人などもあるが、東海村全体の総合計画の中で人材育成を考えるのもいいのでは？
委員	ヘルパー2級の資格は値段が高いので、安価に取得できるような仕組みがあるといいと思う。
委員長	資格取得後に東海村で労働することを条件にするとか。
委員	介護分野では困難で検討していただいてうれしい。人材育成として、コアになる部分（夜勤できるなど）人が必要。保育士も不足している。お金を上げて呼ぶのでは、取り合いになるだけなので。介護の分野に憧れをもってやってもらえる職場として、村でもサポートしてほしい。
委員長	病院でも中高生に職場見学に来てもらっているが、10年後になってしまうので、現在の対策として魅力の発信をする。ケーブルテレビで東海村発信の番組を持ってもらうとか、予算をかけてやってもいいのではないかな。
委員長	【事務局からの質問③について】

	交通手段のニーズはすごくある。
委員	テレビでみたのだが、東海村で、デイサービスの余った車を利用してみてはどうか？そういうところから切り込んでいくのもいいのでは？
委員長	朝、夕は忙しいが、他は空いているので、村が補助を出してみるというのはいいと思う。スタッフもドライバー等、雇用も生まれるのでは？
委員	交通手段については、私が民生委員を始めたときから、15年来の問題でもある。私の団地では高齢者は免許返納しているが、バスがあっても6分もかかってしまう。デマンドを利用しようとしても、30分前に玄関に待っているように言われることもある。このことを言い続けてきたが、未だに解決されていない。勝田では小さなバスでぐるぐる回って、降りたいところで降りられるようになっている。もっと真剣に考えて、2年以内に解決してほしい。
委員長	厳しい意見だが期待の表れ。例えば公共のもので、どこでも乗り降りできるものがある。もしかすると、住民のニーズを掘り起こすと、週1回だけでもバスを団地の中に回させるということもしていいのではないか。

(4) その他

- ・事務局から、新型コロナウイルス感染がまた広がってきていることから、会議の開催方法についてのアンケートを実施することについて説明。
- ・委員長から、オンライン会議を行ったことがあるかどうか質問。
⇒約半数が経験したことがある。

5 閉 会